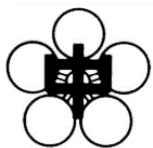


<校訓>白梅の においゆたかに 明るく強く 毎日必ず 一歩前進



輝く未来へ

教育目標「自ら学び 創造する生徒」「豊かな心で 思いやりのある生徒」「ねばり強く 健康な生徒」

板橋区立加賀中学校
学校だより
令和元年度 第 15号
令和元年 11月26日
校長 水谷 智子

Society5.0 を生きる

期末考査が終わり、3年生は進路選択に向けて真剣に考える時期になりました。各教科の評価評定が気になっている人も多いことでしょう。評価にあたっては、定期考査の得点だけでなく、授業中の学習活動への取組状況やレポート・発表など、各教科で予め設定した評価規準に基づき、評価計画に従って進めています。もうすぐ三者面談が始まりますが、3年生のみならず1・2年生の皆さんも、日頃の学習への取組状況を振り返り、学力の定着向上について考える機会にしてほしいと思います。

さて、これから皆さんが生きていく時代は、“Society5.0”と呼ばれる時代です。狩猟採集時代、農耕時代、工業時代、情報時代に続く“超スマート社会”のこの時代は、人工知能(AI)やロボット技術が急速に発達し、様々な社会課題が解決されると期待される一方で、それらの新技術と人類の共生についても考えていかねばなりません。これまで多くの人間が携わっていた「多くの知識を覚えて間違いのないように処理していく仕事」は、AIの得意分野です。ですから、これからの人間には、AIにできないことをする力が求められます。AIは統計的に処理することはできますが、意思をもって判断することはありません。「あなたはどうしたい？」という問いに対して、自分の経験から得た価値観、美学、ポリシーといったものに基づき、「私はこうしたい。なぜなら～」と根拠をもって意思を伝えられる、そして他の人と繋がっていくことができる、そのような力を持った人間が求められます。

先日、DeNA 代表取締役会長の南場さんのお話を聞く機会がありました。『時代を切り拓く人材とは』と題した講演の中で、次の3つの力が話題になりました。「突出した強み、自分なりの個性をもつ」「様子の異なる人とコラボする」「パッション(情熱)を表現する」 それぞれのとがった個性が融合し、強いチームを作って新しい社会を創っていく。そんな時代は、もう始まっています。心も頭も柔らかくして“Society5.0”をたくましく生き抜いていきましょう。

◎白梅学びのエリア小中一貫教育

11月中旬に金沢小学校、加賀小学校で展覧会が行われました。どちらも、創意工夫された絵画や立体作品など、児童の個性あふれる作品が会場全体に展示されていて心温まる展覧会でした。加賀中生の作品も金沢小学校に一部展示させていただき、児童の皆さんに観ていただきました。

さらに、このたび、職員室前廊下に「エリアの小学校の様子を知ろう！」企画で、エリア掲示板を設けました。これからも各小学校の学年通信や合同での取組みなど、エリア情報を随時紹介していく予定です。



また、11月25日(月)には、加賀小学校の全校朝礼で、本校1年生のHさんが、いじめについての弁論発表を行いました。



白梅祭でも発表した小学校時代の体験に基づいた内容で、ふれあい月間にちなんで、加賀小学校の齋藤校長先生からのオファーで実現したものです。

児童の皆さんも、中学生のお兄さんの発表を静かに聞いてくれたということです。このような異年齢の交流を通して、エリアの小中一貫教育をより一層進めていきたいと思っています。

◎第3回CS推進委員会

11月18日(月)に、コミュニティ・スクール推進委員会を行いました。今回は、今年度の中間評価と来年度の学校運営に向けて、推進委員の皆さんからご意見を伺い、熟議を行いました。主なご意見ご提言は以下の通りです。熟議の内容を踏まえ、後期の学校運営を進めてまいります。

(1) 学校評価自己評価(中間)・学校関係者評価・コミュニティ・スクール推進委員会自己評価について

- ・前期の学校状況は、生徒達が落ち着いて学校生活に取り組んでおり、二大行事も盛り上がりを見せた。
- ・今年度、学びのエリアの小中合同であいさつ運動に取り組んでおり、成果が上がっている。
- ・あいさつ運動については、町会等にも事前に知らせ、地域全体で取り組めると良い。→実施の方向
- ・ボランティア活動の推進にあたり、CS推進委員の皆様の協力により、「場」の確保が進んでいる。

(2) 小中一貫教育について

- ・小学校でも、学び・指導の系統性・連続性を重視している。まずは小学校6年間の一貫から進める。
- ・小中乗り入れ授業も良いが、部活動に小学生を混ぜられないか？
- ・小中一貫教育を進めながら、働き方改革は可能なのか？ 先生方の負担が増えるのでは？
- ・学年呼称の変更について、子どもの気持ちはどうか？ →合意形成を図りながら慎重に進めたい。

(3) 来年度教育課程編成方針について

- ・オリパラ関連で、部活動大会が一部変更になるなど、多方面に影響がでることを踏まえて計画する。
- ・運動会を5月4週目の土曜日に実施予定。小学校は秋の実施。
- ・行事の時期が変わるということは、目的や内容も変わるということ。今年度中に準備を進める。
- ・少人数指導は数学のみ実施。英語については発話機会を増やすよう、授業の工夫改善を進める。

◎夢★未来プロジェクト

11月25日(月)の1校時、元車いすラグビーパラリンピアン三阪洋行さんをお招きして、オリパラ教育「夢★未来プロジェクト」講演会と実技体験会を行いました。



三阪さんは18歳の時に頸椎を損傷し、胸から下が麻痺して車いす生活になりましたが、車いすラグビーと出会い、ニュージーランドにも留学、アテネ・北京・ロンドンの3回のパラリンピックに出場し、リオではアシスタントコーチとして銅メダル獲得に尽力しました。

車いすラグビーでは、障がいの程度によるクラス分けがあり、ルールを工夫することによって障がいの重い人も女性も一緒にプレーすることができることなど、パラスポーツの魅力を教えてくださいました。細かいルールは違っても、車いす同士がぶつかり合う「タックル」はラグビーならではの激しさで、その迫力には体験した生徒も見ている生徒も圧倒されました。

三阪さんは、「車いすラグビーに出会って、世界が

広がった」とおっしゃり、「できない」じゃなくて「どうやったらできるか」を考えること、「違い」はコンプレックスではなく「個性」であること(弱みと捉えず違いを伸ばす)、挑戦し続けることで夢を叶えること、というメッセージを皆に送っていただきました。

車いすを自在に操り、力強くチャレンジを続けている三阪さんは、とてもまぶしく輝いて見えました。自分のやりたいことを追求していく毎日が生きる自信になっているのでしょうか。

2校時には、1・2年生の有志が競技用車いすの操作やタックル体験をし、会場全体が大いに盛り上がりました。また、最後の質問タイムには、生徒達から多くの質問が出され、生徒達の車いすラグビーに対する興味関心の高まりが感じられました。多様な人々との共生社会の実現に向け、様々なことを感じ、考える機会になったのではないのでしょうか。この経験を、次の「アクション」につなげていってほしいと思います。



期末考査が終わり、三年生全員が校長・副校長と面接練習をしています。一人一人の3年間の成長を実感する時です。加賀中学校での生活を振り返り、自分自身で価値付けし、次のステップに向けた希望や決意を語る機会になることを期待しています。

